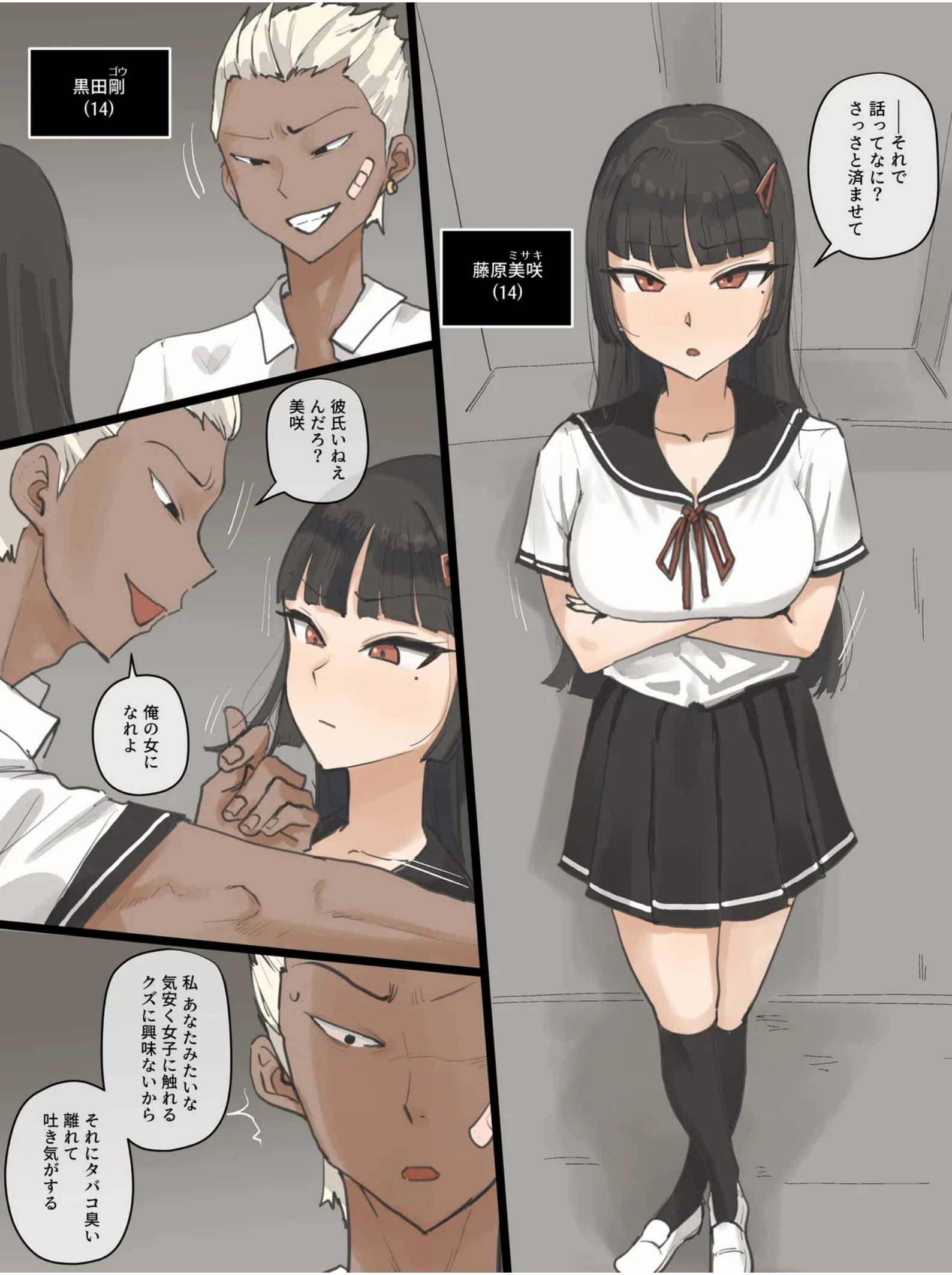

黒田剛(ゴウ)
(14)
藤原美咲(ミサキ)
(14)
――それで
話ってなに？
さっさと済ませて
彼氏いねえ
んだろ？
美咲
俺の女に
なれよ
私 あなたみたいな
気安く女子に触れる
クズに興味ないから
それにタバコ臭い
離れて
吐き気がする

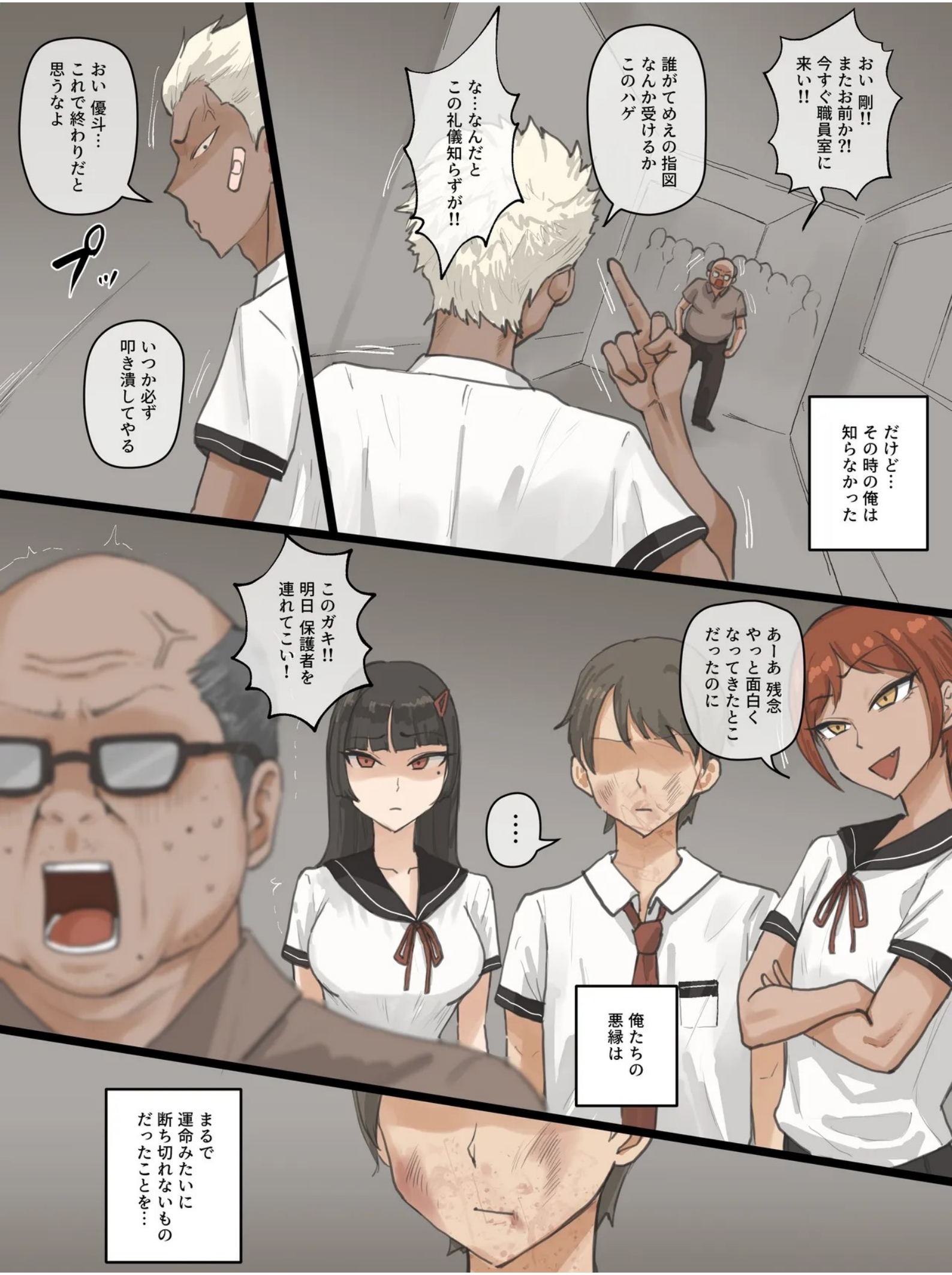

おっと…
まだニオう？
かなり香水
フったのによ 笑
もう二度と こんな
くだらないことで
呼び出さないで
ガシッ
まだ話は
終わってねえよ
おい これでも
優しくしてやってんだぜ
いやっ…
放して！
体育館裏だ
大人しく
ついてこい
女の喜びってのを
たっぷり教えて
やっからよ
やめろ
嫌がってるだろ
てか 胸デカすぎ
何カップだよ？


はっ 雑魚は
引っ込んどけ
ぶん殴られる
前によ 笑
優斗…
今やめるのが
身のためだ
佐藤優斗(ユウト)
(14)
お前 停学が解けて
2週間も経ってない
だろ？
もう一度 停学
くらってみろ
次は退学処分だ
そういえば…
お前の父親 かなり
厳しそうだったな…
たしか軍に勤めてる
んだっけ？
また学校に
呼び出されても
いいのか——
バキ


このクソ野郎がッ!!
モブどもに少しチヤホヤされてるからって調子乗ってんじゃねえぞアァン?!
お前こそっ…校内でしかイキれない雑魚だろっ…
口だけは達者だなこのクズがッ!
ドゴッ
ドスッ
ガコッ
ドタッ
ははっ…そうやってすぐ手を出せば…
強く見えるとでも思ってるのか?
ムキになればなるほど…弱く見えるぞ…
てめぇ…
マジで殺されたいらしいな…?
子供の頃から誰よりも強くなりたかった…だけど俺は病弱だった


そんなにケンカ売りたいならアタシが買ってやるって
高橋涼子（リョウコ）（15）
だから俺が選んだ道は俺なりのやり方で誰にも文句を言わせず認めさせること
ガシッ
スパーリングしたいならいつでも来な
ぐぅ…
常に学業ではトップの成績を維持し続けた上に
グイッ
うんざりするほど付き合ってやるからさ！
これ以上醜態晒したくないならタップしな
クソがァッ！
涼子…もういい…大丈夫だから
え？あー…うん


誰にでも親切に
常に模範であるよう努めた
ほら 立てよ
親父さんの話を
出したことは謝る
スッ
だから お前も
美咲に謝れ
っざけんな
クソがッ！
偉そうに
しやがって…！
パシッ
そうして
築き上げた
俺の評判は
暴力などには
負けなかった
そうよ！
優斗くんの言う通り
美咲に謝りなさい！
謝れ!!
謝れー!!
謝れって
言ってるだろ！
頭下げろ！
黙れッ!!!
このままいけば
きっと社会に出ても
エリートになれるはず…
逃げないで
謝りなさいよ!!
いや… 必ず
なってみせる


おい 剛!!
またお前か?!
今すぐ職員室に
来い!!
誰がてめえの指図
なんか受けるか
このハゲ
な…なんだと
この礼儀知らずが!!
おい 優斗…
これで終わりだと
思うなよ
いつか必ず
叩き潰してやる
だけど…
その時の俺は
知らなかった
このガキ!!
明日 保護者を
連れてこい!
あーあ 残念
やっと面白く
なってきたとこ
だったのに
……
俺たちの
悪縁は
まるで
運命みたいに
断ち切れないもの
だったことを…

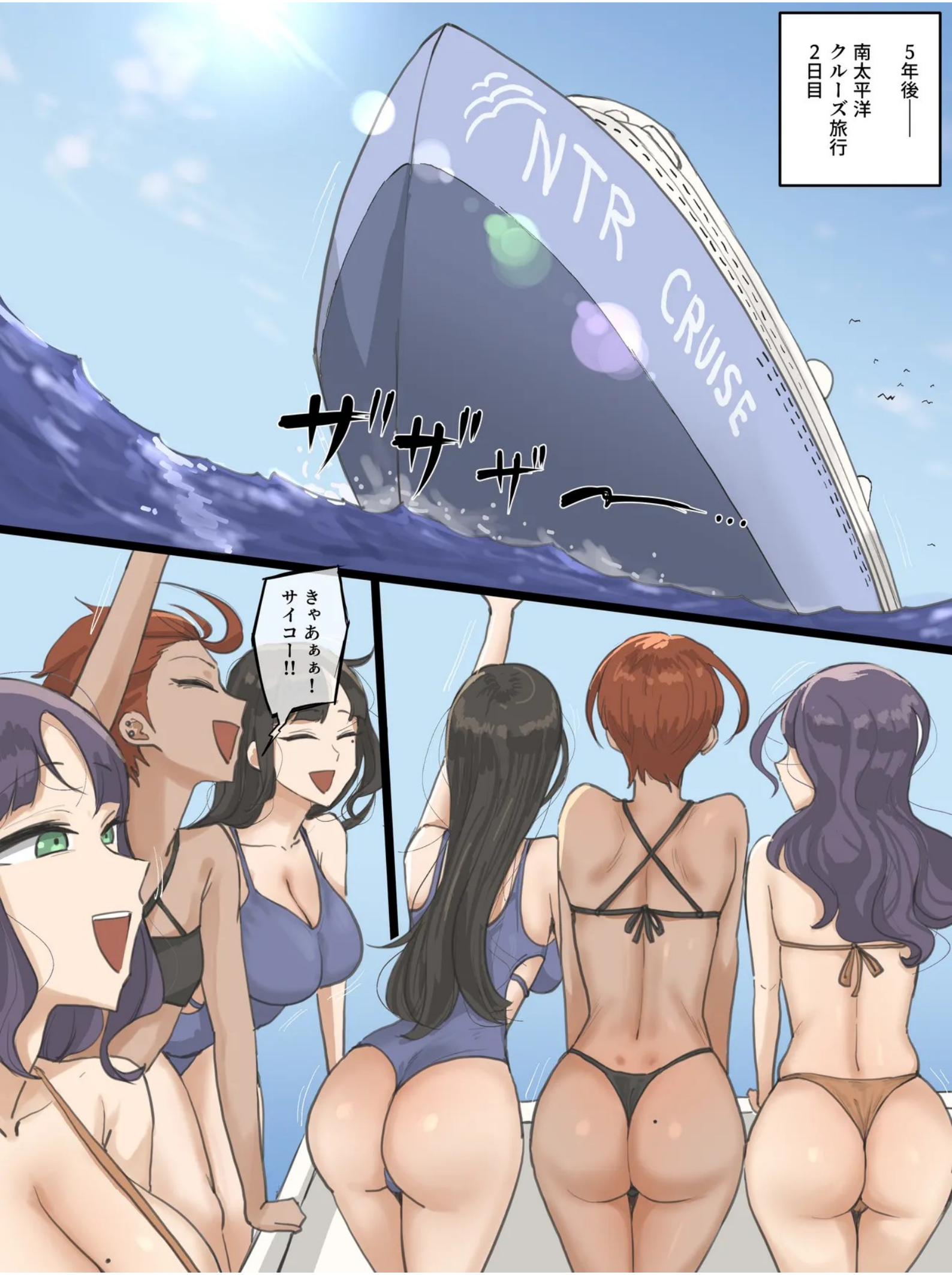

あの子は昔から
変わらないわね…
小さい頃から
いつも優斗のこと
実の姉みたいに
守ってくれて…
涼子ちゃんから
心配だって
連絡があったわよ…
あなたが
電話に出ないって
そういえば
あの子も
お父さんと
二人暮らしだって
聞いたわ…
佐藤由佳(ユカ)
(33)
なんだか可哀想ね…
ちゃんと面倒を見て
もらえなかったの
かしら…
あぁ
そうなんだ
ええ…
一度 連絡して
あげなさい
それと…
担任の先生とも
お電話したんだけど
あの子… 黒田くん
学校 辞めたそうよ
全部アイツ自身が
やってきたことだ
なら全ての責任は
アイツにある
環境のせいに
するなんて
卑怯者の
することだ…
…お母さんね
優斗のそういうところ
本当に立派だと思う
いつも感謝してるわ…


でもね…
時々心配になるの
うちの子があまりにも早く
大人になっちゃったんじゃ
ないかって…
同い年の子みたいに
もっと お母さんに
甘えてくれてもいいのよ…？
母さんは…
大丈夫なの？
え？
何が？
母さん まだ若いだろ
寂しくないのかなって
母さんの人生だって
大事なんだから…
あ 母さん
ごめん
電話…
え 今？
家の前に？
あぁ 分かった
すぐ行くよ
母さん
ちょっと
出てくるね！
まったく…
時々 私なんかより
ずっと大人に
なるんだから…


こんな遅い時間に…どうやって来たんだ？
お礼なら学校で十分聞いたけど…
あ…そ…その…
怪我…大丈夫か心配で…
もじ♡
もじ♡
あそうだ…これ…
桃のジャム…私が作ったの…
本当…？ありがとう大事に食べるよ
美咲お嬢様もう遅い時間ですそろそろお戻りを
あ…はい…


そ…
それじゃ…
また明日…
美咲
…好きだ
ドキッ♡
おーい 優斗！
アタシのこと
待ってたのか？
カワイイ奴め 笑
お礼なら
明日ジュース
でも…
ん？
優斗？
ドキッ♡


もうっ…
私が先に言おうと思ってたのに…
…


5年後――
南太平洋
クルーズ旅行
2日目
NTR CRUISE
ザザザー…
きゃあぁぁ！
サイコー!!


いくらなんでも
母さんの水着
大胆すぎないか
…？
私は
気に入ってるわよ？
久しぶりに
昔を思い出すし…
フフフ
はぁ…優斗!!
シラけること
言わないの！
アタシが直々に
スタイリング
したんだから
自分の理想を
俺の母親に
押し付けるの
やめろ
なんだとっ?!
アタシが
貧乳だって
言いたいの?!
な…なんで
そうなんだよ?!
おばさま
すごくお綺麗で
ずっとお若く
見えます
あら ほんと？
ほら 優斗
美咲ちゃんも
褒めてくれてる
じゃない
ほんとセンスない
なんでこんな奴が
美咲の彼氏で
いられるのか
理解に苦しむわ
うっ…
うるさいな！
それより
明日滞在する
島の計画
立てようぜ


てことは…
私たちは今
この辺りかな？
うん
たぶん明日は
この島に
一日滞在して
明後日には
ニュージーランドに
入る予定らしい
めっちゃ面白そう！
ニュージーランドの
火山ツアーも楽しみ！
筋肉ムキムキの
イケメンも
たくさん…？
ムフフ…
そういえば
この地域って
火山がすごく
多いのね
この近辺は
プレートが
ぶつかり合う
場所だから…
あっ そうか！
授業で習った
環太平洋火山帯
ってここなんだ…
ちょっと優斗…
二人きりの時も
そんなつまんない話
ばっかしてるワケ？
私たちは
退散するから
美咲ちゃんと
熱い時間を
過ごしなさいな…

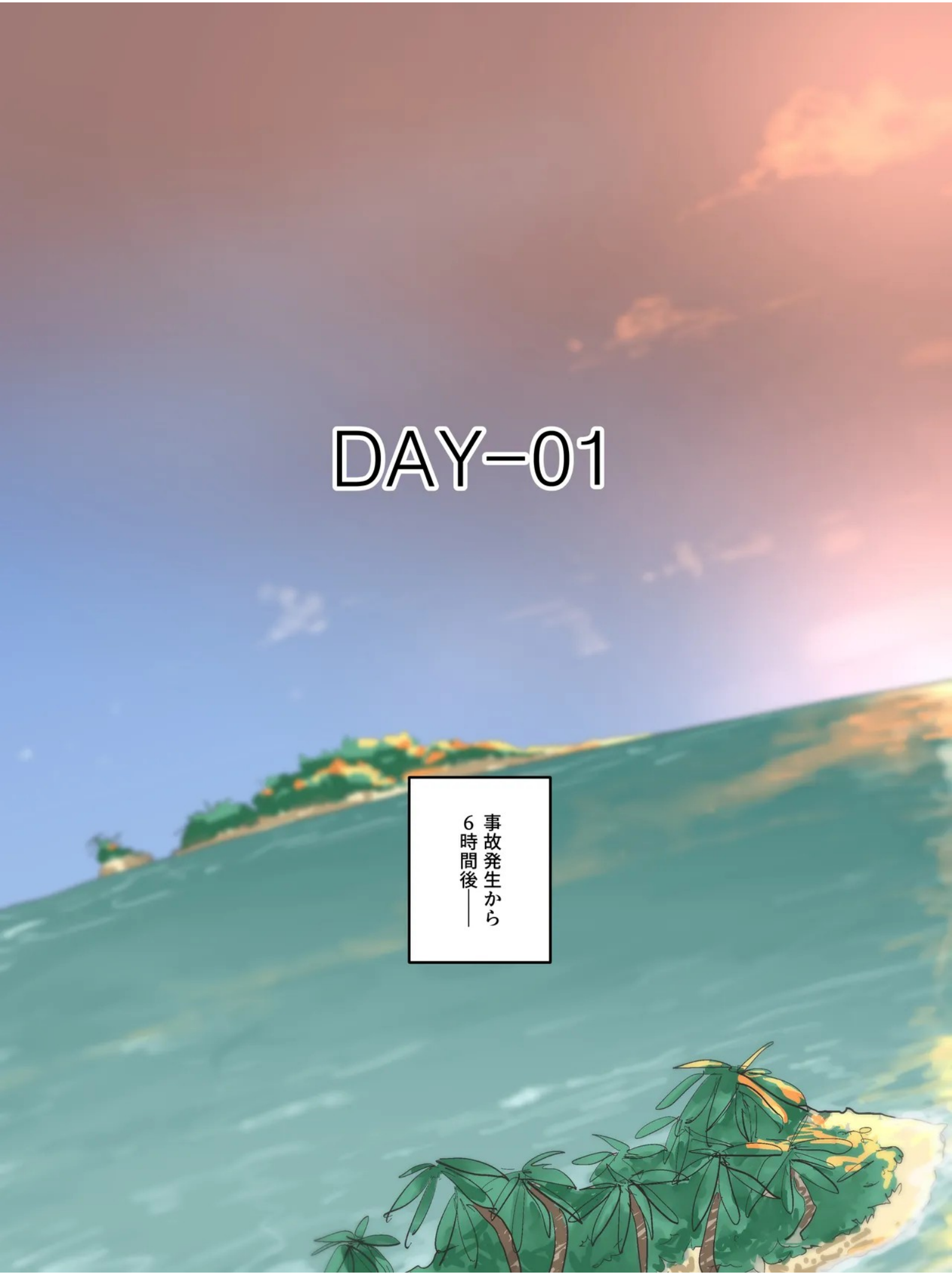

な…何の話だ?!
そういうのは
こっちのペース
ってのが
だってさ?
アタシたちが
邪魔だったみたい
早く行かないと
怒られちゃう
どこに目つけて
歩いてんだ?
ん…?
お前どっかで
見た顔だな?
あー…
そうだ!
涼子だろ?
黒田剛?
きゃっ…
ご…
ごめん
なさい…


にしても…
こんなとこで
会うとはな
フ〜
このっ…！
いきなり
何すんのよ!!
フ〜…
コイツ…
見ない間に
随分とデカく
なったじゃない
おっ… 美咲か
相変わらず
イイ女だな 笑
結局 優斗と
くっついたのか
ウケるな
そんで
こっちの女は？
お前らの姉か？
こりゃまた
暴力的な
パイオツ
してんなぁ
おいっ 彼女は
優斗のお母さんだ
言葉に気をつけろ！
は？
優斗のお袋？
マジかよ 笑
な…何
この硬い身体…
本当にコイツ
あの黒田なの？


息子とは違って情熱的っすね笑
モゾ
モゾ
ギンギンになっちまった
アンタ頭おかしいんじゃないの?!セクハラだから!!今すぐ謝りなさい!
ったく…うるせぇまな板だな笑
もしかしてこの子が…あの時学校を辞めた…?
想像していたよりずっと危険な雰囲気…
んだと?!
これだけ無茶苦茶なら関わらない方がいい…
もういいわ行きましょう涼子ちゃん…
ああそうだ…あのスパーの話まだ有効か?
コイツ…
グイッ
その手を放せ!!黒田!


乗客の皆様に船長より
お知らせいたします
ただいま近隣海域にて
大規模な地震が発生
当海域に津波警報が
発令されました
緊急事態発生！
緊急事態発生！
ビー
ただちに客室へ
お戻りください
甲板への移動は
固く禁止いたします
もう一度
彼女たちに
触れてみろ
次は――…
ビー
はは…
ドッキリか
なんかだろ…
え？
いきなり何
津波？
乗組員の指示に従い
救命胴衣の着用準備を
してください！
繰り返し申し上げます
ビー
緊急事態発生！
緊急事態発生！
なんだよ
この海流の動き…！
これって…
もしかして…
とんでもない…
ざわざわ
キャー
うわぁぁ…!!
あ…あれっ！


!!
ゴゴゴゴゴ
クソッ！
もうこんな
近くに？
!!
優斗！
ドドドドド
母さんッ!!
涼子姉ッ!!


DAY−01
事故発生から
6時間後――


まったく
生きてるってのは
最高だな…
だろ？
んっ…でも…
本当に見たの…？
嘘じゃないわよね？
間違いねぇって…
木箱に掴まった
美咲と優斗の二人が
あっちの島に
流されてった
はぁ…
はぁっ
あぁっ
ザザー…
ザザー…


だから
安心しなって
アイツらは
絶対生きてるさ
涼子ちゃん…
ごめんなさい…
手を離しちゃって…
無事かしら?
お願い みんな
生きていて…っ
かぁ〜…!
おばさんの
Kカップおっぱい
マジで極上だな…
もちっもちで…
弾力も最高だぜ…
んぅ…
ムニュ〜〜
ムニュ
あー… でも
やっぱ今日は
無理したからか
ちと疲れたわ
回復するには
ここで一週間は
休まねぇとな?
ボヨヨ〜ン
なんですって?!
約束が違うじゃない!
胸を好きに
させてくれたら
明日すぐにあの島へ
連れて行くって…!
おばさん
ウブなんだな
ククッ


たかが脂肪の塊を揉ませただけで俺をコキ使うつもりだったのか？
クソ野郎…
ん…っ
はぁ…っ
あっ
スリ
スリ
はぁ
んうっ
あぁ!!
どにっ
にっ
お… 乳首ビンビンに硬くなってんぜ♥ ほらここでやめたらおばさんも物足りねぇだろ？♥
ぎゅうっ
俺は命の恩人だぜ？ 全てを差し出したって足りねぇくらいなのにデカい乳に反して器はちっせぇな～
待ちなさ…
あ゛ぁ
あぁ
あ゛っ
どりどり
いいから俺を喜ばせてみろ 俺もそれ相応のお返しをしてやる ギブアンドテイクが俺の信条なんでな


おら…
さっさと
股開けよ♥
もう
びしょ濡れに
なってんだろ
あんっ
待って！
黒田くん…
ギュっ
あぁ…？
それじゃ…口で…
口でしてあげる…
それで十分でしょ？
ね？
いらねぇな
グイッ
いやっ…
ぐりっ
んうっ
俺が今
気になってんのは
ここなんだよ…♥
ドキ
ドキ
あのクソ優斗を
産んだ
この場所がな


嘘だろ…
どうして…
ザザーン
ザザーン
こんな
大きな無人島に
俺たち3人だけ
なんて…
俺が旅行なんて
言わなければ
こんなことには…
優斗のせい
じゃないわ
おばさまも
きっと無事よ
だから
諦めないで
探しましょう
そう！
美咲の言う通り
私が二人より
少し遅れて
島に流れ着いた
んだから
おばさんも
近くの島に
いるはずよ
きっと…


な…なに？
ボロンッ♡
この大きさ？
悪いけど…こんなの全部は入らないわ半分くらいなら…
バカ言うなお前 経産婦だろ？この穴からガキひりだしたくせによ
そ…それとこれとはちがっ…♥違うわ!!
ドキ♡
ドキ♡
ヒクッ♡
ヒクッ♡
マンコ緩めろってそんなガチガチじゃ入らねぇだろ？笑
そんなビビんなよおばさんククッ
こんな暴力的なサイズ…初めて見た…
ドキ♡
あ…あっ…来る…
すぐイかせてやるし絶対気に入るぜ俺のチンコ♥


あぁ…
マンコ
きっっ！
はぁっ もう…
これ以上はムリ…
奥 届いてるから…
いちいち騒ぐな
黙って俺のチンコ
咥えてろ！
子宮の奥まで
エグってやっから
ぐぐぐっ
一体どこまで
入ってくるの？
ズプッ
し…子宮が
持ち上げ
られてる?!
んぐぅ…
んおッ
おおッ
クソっ…
どんだけ締まり
ヤバいんだよ
このマンコ…
すぐイっち
まいそうだ…
あぁ…
おおおっ
あぁっ
あんっ
ぎゅっ
どちゅ


なに…これ…
ちょっと
突かれただけで
あぁ…ッ
ズッシリした
重さが
あそこ全体に
伝わってくる
ッ…
あぁ…
また入って
くる…
ズチュ
届い…た…
もうやだっ！
こんな簡単に
奥まで届く
なんて…
おおおッ
ぱんッ
ぱんッ
ぱんッ
あーイキそう
ヤバいわこれ
気に入った笑
俺のチンコどーよ？
最高だろ？ん？
由佳ちゃん彼氏いんの？
俺の女になれよ
あッ
あんッ
おッ
ふざけるな!!
由佳ちゃんだなんて…
気安く呼ばないで！


ごめん
由佳ちゃん…
俺たち別れよう
18歳で優斗を
身籠ってすぐ
あの人は
私たちを捨てた
あの子を快楽の
おまけかのように
扱った彼のせいで
私は男性不信に陥った
私に言い寄ってくる
数え切れないほどの
男たち…
男なんて結局…
皆 同じだわ
そうしているうちに
女としての自分を
少しずつ忘れていった
だけど…
私は幸せだった
優斗は私の期待を
遥かに超えて
すくすくと
よく育ってくれた
私の外見しか
見てないんだから
母さん まだ若いだろ
寂しくないのかなって
母さんの人生だって
大事なんだから…
今になって
ようやく少し
勇気が湧いて
きたのに…


おおっまじでイってんじゃん！えっろ♥
たかがこれっぽっちで獣みてぇに喘ぐのかよ
ククッ
あんッ
あぁッ
たんッ
たんッ
たんッ
優斗ママは早漏マンコだな♥♥

これからは俺が毎晩可愛がってやるもう寂しい思いさせねーよ♥
だからな？♥俺の女になれよ由佳ちゃん♥
あぁっ
やめてっ!!黙って…お願いだから彼を思い出させないでぇ!!


おおおおおおッ
どうして…よりによってこんなヤツと…
どうして?!
おぐッ
ぎゅ～～
ぎゅむ
くははは っおらイケよ由佳ちゃん♥
ズブッ
ズブッ
ズブッ


えっ？
なによこれ
おろして!!
あっ♥
うるせぇな
黙ってマンコ
締めとけ！
あんっ
ぬぉっ
ぬっ
ぬっ
ぱん
おぉぉぉぉ
ぱんっ
ぱんっ
ぱんっ
やだぁ…っ
こんなの
耐えられない…
またイっちゃう
ああぁくる♥
だめだめだめ♥
きちゃうぅ♥♥
プシャー
プシャ
だめっ！
やめてぇ…
お願いっ！
突くたびに
潮吹いてんじゃん
ちゃんと水分温存
しとけよ
ものすごい力…
私かなり重いのに
オモチャ扱い
されてる…
本当に優斗と
同じくらいの
歳なの？
この体位で
ヤったことある？
由佳ちゃん♥
おぉっ
ずっ
ずぷっ
ずこっ
ずぐぅっ
おぉっ
んぉっ


母親としての尊厳を壊されちゃう…
ぉラッ
んおぉ～…
プシャアアッ
ぬぽっ
ハハハ
またイったな
由佳ちゃん♥
オナホの資格も
バッチリだ♥
つっても
由佳ちゃんの
マンコ名器すぎて
俺もすぐイきそう
だけどな
そんじゃ
今度は気持ちよく
一緒にイこうぜ♥
ぐぢゅっ
あっちょ…
ちょっと待って
黒田くん!!
もう無理ぃ…
無理だから…!!
ああぁ…
イイ…♥
最っ高♥
ぬぢゅっ


おおッ
入れただけでイくのかよ笑 可愛いじゃん♥ たまんねぇ♥
な？言っただろ!! 俺のチンコ絶対に気に入るってな♥
あっむいっ
もうやめ…
あぁッ
ぬッ
ぬッ
ぬぷ…
おぉ〜…
イッ…
ああっ…精液上がってきた!!
出すぞっ！
おッ
いやっ!! 中はだめよ!!


いやっ
はなして…っ
おッ
んぐぅ
おぉ
優斗…
おぉ…っ
あぁ…っ
あぁ…
中に出さ
れてる…
やぁ…
だめ…
にゅるッ
にゅるるる


はぁ…
最高…♥♥
フー…
はぁ～…
フー…っ
フー…っ
はぁ…
はぁ…
ぐんぐんッ
どぷっ
よしこれで
救助代は精算完了
それとついでに…
明日の島への交通費も
前払いで貰っておくか
このまま
日が昇るまで
ヤリまくるぞ♥
おら
掃除しろ
ムニィ～…
ザザ～…


DAY-02
母さん!!
おばさん!!
母さん…
どうやって
ここまで?
怪我はない?
ええ
大丈夫よ
あなたたちこそ
怪我はない?
みんな 無事で
よかった
オイオイ
全員生きてん
のかよ 笑
これぞ
奇跡って
ヤツか?
な…なんで
お前が?
母さん…
どういうこと?


黒田くんがいなかったらお母さんどうなってたか…
私を助けてここまで泳いで来てくれたの
アンタ…！まさかおばさんに変なことしてないでしょうね？
え…？まさか…もしそうだったら私も黙ってないわよ
黒田くんは見た目よりずっといい人ってだけ…そうでしょ？
だったらアンタも日頃から馬鹿な言動は慎みな！自業自得よ
アタシたちと過ごすつもりならこれからは気をつけなさい!!
いや黒田の言う通りだ
ったく…男を見る目があンのは一人だけか…
お前らさぁ…まずは感謝を伝えるのが人の道理だろ


母さんを助けてくれて本当にありがとう…
黒田のヤツに口止めするの忘れてた…察してはくれたみたいだけど…
ビクッ
ドロ～…
フル
あー まぁ…当然のことをしたまでだろ…それより――…
ここも無人島みてーだけどお前らどうやって生き残るつもりだ？
ビクッ
ドキッ
っ……まだ精液が垂れてきてる…
クソ野郎…っどれだけ中で出したのよ?!
す…すぐ救助隊が来るわよ！あと少し耐えれば…
はい まだ状況が分かってねえマヌケが一人 笑
…もし救助隊が永遠に来なかったら？
はぁ？馬鹿なこと言わないで!!今の言葉取り消しなさい!!
うるせーな黙って俺の指示に従えまず寝床の確保からだ


アイツは
一切の迷いを
見せず
まるで何度も
こうした危機を
乗り越えて
きたかのように
場を仕切っていった
アイツが現れてから
彼女たちは
みるみる落ち着きを
取り戻していった
俺が本で学んだ
知識なんて
この場所では
ほとんど
役に立たない
そして俺は
自分自身について
改めて考えさせられる
ことになった


もしかしたら
過去の記憶に囚われて
アイツをちゃんと
見ていないのは
俺自身なのかもしれない…
れろ
れろ
れろ
ぢゅぶ
ぢゅぶ
ぢゅぶ
アイツは…
完全に違う人間に
なって帰ってきた


…にしても
黒田のヤツがあんな
役に立つなんてな
黒田くんね…
軍人のお父さんに
教わったそうよ…
今は本人も傭兵として
世界を回りながら
暮らしているとか…
ザザ～…
えっ？軍人?!
それ本当？
どうりで
手慣れてるって
思った…
ちぇっ…
それでも
気に入らないな
あの偉そうな
ドヤ顔…
ザザ～…
おばさん
アタシね…
ポジティブに
考えるよ
スゥ…
スゥ…
救助隊が来るまでの
素敵なバカンスを
過ごすって
考えることに――…
スゥ…
スゥ…
スゥ…
…
おい優斗…
これで終わりだと
思うなよ
いつか必ず
叩き潰してやる
…


ザザ…
ぶるんっ♥
待ちくたびれたぜ
アイツらは寝たか？
ほら
さっさと脱いで
こっち来いよ♥
昨日夜通しヤって…
今日は一日中働いたのに
どんな体力してるの？
私を見るなり
勃起させて…
これが若さ
かしら…
うおっ♥
由佳ちゃんの
身体エッロ♥♥
やっぱ10代で
子供産むだけは
あるわ
うるさいっ!!


ムニュ～♡
とろ～…♡
おぉ…
えっろ…♥
でも昼からずっと
不機嫌そうだな？
先に取引を
持ちかけたのは
由佳ちゃんだろ
結局ただ私を
犯したいだけ
でしょ…
心にもないこと
ばっかり
言わないで！
大人をからかって
楽しい？
あ？本気だって
俺の同年代の
誰よりもずっと
若くてキレイだぜ
由佳ちゃんは
むちゅ♡
ぐちゅ♡
ドキッ♡
初めて会ったときも
28くらいにしか
見えなかったぜ？
…ふん！
20代だなんて
バカ言わないで…
そんなお世辞で
私が喜ぶとでも？
ぬちゅっ♡
機嫌がいいわけ
ないでしょ…
毎日2回も射精
させてくれなんて
やりすぎよ…
そんだけ
由佳ちゃんのことが
好きってこったよ
その怒った顔も
可愛いね～♥
ぬちゅ♡
ぬぷっ♡
ぬちゅ♡


ほんっと
生意気なヤツ…
とろ～…
ムニュ～…
私を弄びながら…
完全に自分のペースに
巻き込んでる…っ
れろ
れろ
ぬぢゅ
ぬぷ
…もういいわ
時間の無駄だし
さっさとイかせて
終わらせてやるん
だから…
れろ
れろ
イく時は…
ちゃんと…っ
声に出しなさ
いよ… んっ
これ…
すげえな…
おお…
ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽっ
ぬる～…
ぬぢゅ
ぬぢゅ
くうっ…
パイズリフェラ
マジで最高!!


このっ…クソ野郎！
うっ…精液の匂い…
イク前に言えって言ったでしょ!!
飲み込んじゃったじゃないの…っ！
やめて!! 余計なことしないでっ！
そんじゃ本番いくか由佳ちゃん♥
えっ？
あぁ…クソ可愛いキスしようぜ♥舌だせよ


黒田くん！
一回セックス
したくらいで
私を軽く見ないで
いい？
はっきり言っておくわ…
私は優斗の母親なのよ！
アナタなんかより
ずっと大人なんだから！
もう二度と気安く
由佳ちゃんだなんて
呼ばないで
おばさんって
呼びなさい！
約束どおり
今日2回目の射精
だったんだから
私はもう帰るわ
ん？
そうだったか？
あぁくそ…
夕方フェラで
一発抜かれてた
んだっけな…
じゃあ
仕方ねえ…♥
えっ？


射精しないでセックスするしかねえな…
この…っ！クソ野郎!!
俺はセックスしねえと眠れねぇんだよ♥だからヤろうぜ由佳ちゃん♥
クリがぷっくり勃ってんぞ由佳ちゃん♥大の大人がそんな赤ちゃんみてぇに泣いていいのか？ん？♥
クンニなんて恥ずかしくて死にそう…!!
返事するまで止めねぇからな♥
いやよっ！絶対に約束は守って！♥
今日はだめぇっ♥
あぁだめもうムリ!!イくっ♥イっちゃう!!♥
ったく…マジで頑固だな♥
クソっ仕方ねぇ…おらイけっ


イけっ!!!!!!
あぁ…結局…また今日もヤってしまった
この男のセックスは…強引で圧倒的で…女を無理やりイかせてしまうセックス…
おおぉぉ…
死んでも認めたくないけど…
ズプッ
今日一日中この男とのセックスを思い出していた優斗と一緒にいるときでさえも…
ぱん
ぱんっ
おぉぉ…
この歳になってイくって感覚を初めて知ったくらいスゴかったから…
長い間男を避けてきたせい…だけじゃない…この男のセックスは明らかに他と違う
おっおっ
ズプッ
毎晩こんな快楽に慣らされてしまったら絶対に危険…
だから今日は耐えようと必死だったのに…
奥まで満たしてくるこの男のペニスは……抜けたときにこそ空っぽになった寂しさを思い知らせてくる…
おぐっ
ズプッ


昼間は精子で子宮パンパンにしながらよく平然と息子と会話出来たなぁ？
あっ
あっあんっ
あんっあんっ
おぉッ
あれそそったぜ俺らだけの秘密みたいでさ♥
ケダモノみたいに私が私じゃなくなっちゃう…っ
おおっと♥またマンコ締まってんぞ♥♥
ぬぷっ
ぬぢゃ
ぱんっ
ぱんっ
ぱんっ
そろそろ日付も変わったかもなぁ？♥
一人でイくのも寂しいだろ？♥


ああっ
イくっ!!
おッ
おく〜…ッ
このクズ…
結局 最初から
中出しするつもり
だったのね…
あ… 中で
震えてる…♥
二回目なのに
こんなに…♥
はぁ…
はぁ〜…
はぁ…
はぁ〜…
あああ♥♥
イく また
イっちゃうぅ
♥♥♥♥


うぉ～…
やべぇ…
中出し最高♥
んぶぉぉぉ…
脳が溶けちゃいそう…
こんなのもう無理…
ぬぷ～～…
おいおい…
マンコが咥えこんで放してくれねえよ♥
ズブッ
どぷっ
ぬぷぷっ
あっ
優斗ママはチンポが大好きなんだなぁ～♥♥
はぁ…
あんっ


キャアアア
バサバサ
DAY-15
無人島に漂流してもう15日目――
救助の希望はだんだんと薄れていっている
!!
!!
どうしたの母さん?!一体何が…?!
あ…っあれ…


…
…
一人だけか？
よほどついて
なかったんだな
母さん 大丈夫？
落ち着いて
俺の後ろに――
黒田くん…
わ… 私たち
これから
どうすれば
…？
?!
もう半月も経つのに
救助は来ないし…
このままじゃ
私たちも…
そうよ！
どうするの？
何か案出し
なさいよ！


最近
明らかに母さんは
俺よりも黒田を
頼りにしている
そんな母さんを
見せつけられるのは辛いが
俺にはどうすることも…
おい ガタガタ
うるせぇぞ！
お前ら全員
俺に命 預けて
んだろうが！
弱けりゃ死ぬだけ
当たり前だろ？
浜辺に戻って
夕飯の準備でも
してろ
俺はここで
後始末していく
からよ
優斗…
いや…
やっぱ一人
残って手伝え！
なんだ 誰も
いねぇのか？
優斗…
お母さんも残って
黒田くんを手伝うから
あなたは先に戻りなさい
気をつけてね…
美咲ちゃんと
涼子ちゃんの
お手伝いをして
夕飯の準備
お願い
おい 優斗～
俺の魚は
カリッと焼けよ～
生臭いのは
勘弁だからな
ククッ


こんな時に
俺のチンポ
欲しがるとか…
息子に見られたら
どうすんだ？
由佳ちゃん♥♥
あんっ
ぬぢゅ
ぬぢゅ
ぬぢゅ
ぢゅるるっ
んっ…♥
ただノルマを
こなしている
だけよ…
ま～たまた笑
最初からマンコ
びしょびしょに
してたくせに
この島では
不安と恐怖が
影のように
まとわりつく
あぁッ
んぅ…ッ
正気を保つためにも
少しのあいだだけでも
忘れたい…
いつになったら
素直になんの？
由佳ちゃん♥
あッ
初日から
一日も欠かさず
ヤってるんだぜ？
もう夫婦みたいな
もんだろ♥
ズプ
ズプ
ズプ
もう 優斗を
仕込んだ男より
俺のほうが突いて
やったと思うけど
どーよ？♥
んうっ
あっ
快楽に身を
委ねている時だけは
苦しみを
忘れられるから――


毎日 執拗に
責められる
乳首も♥♥
カリ
カリ
れろ
れろ
子宮に響く
感覚も♥♥
これ…好き♥
ズチュ
あ…イく♥
イく イく♥
イっくぅ♥
あは…は…
冗談でしょ？
黒田くん…
早く済ませて
ご飯にしましょ？
あまり遅れると
あの子たちも
怪しむわ
ぬぢゅ～…
イヤか？
なら明日から
3日間はセックス
おあずけだな…
何ボーっと
してんだ～？
さっさと服着な
由佳ちゃん
えっ…？
なんで止めるの…
黒田くん…
？
？
まだダメだよ
由佳ちゃん♥
俺の言うこと聞けたら
イかせてやるよ♥
っ…
いきなり
なによ…？
「黒田くんの
おチンポ大好き♥」
はい 復唱♥


おーい…
寝てんの？
由佳ちゃん♥
はぁ…
はぁ…
だめ…
言っちゃだめ…
だめ…
なのに…
く…
黒田くん…
の…
黒田くんの…
おチンポ…
大好きよ♥
おッ
おおッ
おおぅ…ッ
おぉ～…ッ
やっぱ面と向かって
言われるとキくぜ♥
イイ子だな～
由佳ちゃん♥
おら マンコ締めろっ!!
ご褒美に俺の精子で
たぷたぷにしてやるよ♥♥
あぁ… 言っちゃった♥♥
すごいのがキちゃう♥♥
ごめんね優斗♥
お母さんイっちゃう♥
今日だけ許して…っ♥♥
もう二度と
こんなはしたないこと
言わないから♥♥


ハハハ
相変わらず
弱いな〜
意地張ってないで
タップしなよ
優斗
ぐっ…
いやっ…
まだまだ！
昔は色々誘っても
相手してくれ
なかったくせに…
なんで急に
ガチになってんの？
もしかして 黒田を
意識してるとか？
むぎゅ〜♡
アイツ…
別に問題も起こさず
うまくやってるじゃん
むしろ
黒田のおかげで
アタシたち
やっていけてるし…
思ってたより
まともな奴
なのかも…
…
や…やめて
ストップ!!
パチ
パチ


それじゃあ罰として
明日から
海岸ダッシュ30本ね
みんな聞いた？
応援よろしく♥
おいおい
雑魚の優斗くん！
女一人
倒せねぇとか
致命的だろ 笑
去勢でも
されてんのか？
涼子
俺とヤろうぜ
馬鹿言うな！
これでもアタシ
プロだから
誰彼構わず
相手はしないよ！
なんだ
偉そうに…
そんじゃ
体重差も
考慮して…
俺は右手は
使わねえ
それでも
5秒ありゃ
楽勝かな～？
…


女だからって舐めてるみたいだけど…
路上の喧嘩ぐらいしかしたことないアンタとアタシじゃ格が違うから
ついでに賭けようよ
5秒超えたら全裸になってアタシの股の間を犬みたいにくぐれ
別にいいぜ！じゃあ5秒以内に俺が勝ったら――
お前のマンコでもいただこうかな
ドキ
ハハハ心底イカれた変態野郎だな…好きにしな！
涼子！挑発に乗るな！
にしてもアンタ自分のモノにずいぶん自信あるみたいだけど――…


アタシは
デカくないと
男として
認めないから!!
おー
いきなりかよ?
じゃあカウント
スタートだ!
5
ダダッ
いくらガタイが
良いからって
プロのアタシを
5秒でなんて
無理に決まってる
4
力で強引に
返そうとするほど
アタシに利がある
は?
馬鹿な奴…
毎日 男相手に
組み手して鍛えた
耐久力だ
3
這いつくばる
準備を――…
どうやって
食おうかな~
最初はやっぱ
正常位か?
2
?
がしっ
バックも
捨てがたいが
1
え?
いつの間に
右足を?!
ちょっと
待って!


あぁん♡
ガバッ♡
楽勝すぎだろ!!
涼子!!!


なんだ今のは…？
あっという間で
目で追えなかった…
涼子!!
しっかりしろ!!
？
？
おおー…
ケツでっけぇな…♥
やっぱ鍛えてるだけ
あるわ
マン肉も
ぷりぷりで
美味そ～♥
ムニィ
あんっ
ゆ…優斗!!
見るな!!
見たら
殺すよ!!
この状況で
まず気にするのが
優斗かよ？
匂うな～？
ぐいっ
そういや…
お前ガキの頃から
ずっとアイツに
付きまとってたな
な…なに？
この大きさ…
お前…
優斗のこと
好きなの？
ち…違うッ！
変なこと言うな！
早く放せ…ッ！
殺すよ！
も…
もう一回！
もう一回
勝負しろっ！


彼女持ちの男を狙ってたとかとんだビッチマンコだな～
んべ～
ぐいっ
あぁッ
ぱぁ
おい美咲よ～く目に焼き付けろ俺が代わりに躾けてやる
はぁ…はぁ～…
れろ
れろ
れろ
くちゅ
あ…♥ちょっと…あっそこ…だめぇ♥
ドキ
黒田!!!そこまでにしろっ!!!!
あんっ
あっあんっ
口だけじゃなくてかかってこいよいくらでも相手してやる
後悔する間もなくさっきの死体の横で寝ることになるぜ分かったか？
ククビビりすぎだろお～い優斗くん先生でも呼びに行ったらどうだ～
ゆ…優斗には手出すなよあっ♥ころ…すよ…


黙れ！
負け犬オナホは
チンコでも
しゃぶっとけ
んぶッ
おら！
どうだよ
俺のチンコは
合格か？
ぷはっ
バカ優斗！
ボーっと
してないで
行きなさい！
アタシは平気！
アタシが
油断したせい
なんだから！
うるせぇよ！
ごめん…
涼子…
何もできない…
アイツが怖い…
立ち向かおうとすると
足がすくむ…
うおぉぉ…
きっっ♥♥
足が動かない…
だけど逃げたくも
ない…
あっ
まって…
ズプ～…
あぁッ
お～…
涼子マンコ
いいじゃん♥♥
おおおお…ッ
自分で自分が
許せない…
なんで俺はこんなに
卑怯で情けなくて
弱いんだ…!!


ああこれ…大きすぎ…気持ち悪い…
頭…おかしくなる…
これだめ…こんなのムリ♥子宮潰される…壊れちゃう…
ぱん
ぱん
ぱん
グチャ
んぉッ
おっ…
すっげぇ締め付け…♥やっぱぶくぶく肥えただけのマンコとは違うわ♥
あぁんっ
貧乳もたまにはいいな♥ちっせぇ分乳首敏感でよく鳴くし♥
ぎゅっ
ぎゅう
はぁっ
はぁ…っ
あっ♥ちょ…ちょっと待って！
ちっなんだよこれからって時に…ん？


やっぱ！
お前 処女
だったのかよ?!♥
クハハハ
そのくせ あんな
イキってたとか♥♥
こんな極上マンコを
放置してたとか
優斗 お前インポか?
んぉッ
おおお…おぇッ
ギュ
ぎゅっ
ズプ
ズプ
ズプ
あ～ どんどん
締まってくる♥
すぐ気持ちよく
してやっからな～♥
おぉッ
これからは
発情期の犬みてぇに
毎日犯してやる♥
一緒に楽しもうぜ～
涼子♥
おぉ…
んぉッ
優斗！
待って!!
おぐ…
だっ
結局
何も出来ずに
逃げるだけかよ
ゴミだな 笑


あなたは本当…
救いようが
ないわね…
おばさん?
はぁ
はぁ…
あ…ッ
もう…やだぁ
おっ
拗ねてんの?
第一夫人の
プライドか~?
由佳ちゃん♥
おら 来いよ
3Pやろうぜ
第二夫人
涼子の歓迎会だ♥
おうッ
おッ
ふか…ッ
あぁッ
ズプ
ズプ
勝手にしなさい…
もう見たくもない…
照れてんのか?
なら先に戻ってろ
また後で可愛がって
やる♥
由佳ちゃんの
マンコに
寂しい思いは
させねぇよ♥
んおッ
おおッ
たんっ
たんっ
たんっ


この…野郎
おばさんに
なにしたの?!
あんっ
はぁ…
昼はノリノリで
チンコ咥えてたくせに…
女ってこえーな♥
あっ
あれ…マジで
行っちゃった?
気にせず
楽しみゃいいのに
頭固いな~♥
ふ~…
ふ~…
クズ野郎 あっ♥
アンタ…んっ♥
気狂ってんじゃ
ないの?!
死ねっ!!
ぐぅ
ぬぷっ
黙れっ!
そんなクズに
犯されながら
乳首ビンビンに
してるのは
誰だよ♥


こんなに気持ちいいことを教えてやった俺に感謝しろよ
しっぽ巻いて逃げたアイツとじゃ一生こんなセックス出来ねぇぜ♥
おッ
おッ
おぁッ
ぱぁ
にしてもよぉ…
優斗の奴…お前じゃなくて美咲が犯されてたら逃げたと思うか？
おぉぉ…
ぐちゅッ
違うっ！逃げたんじゃない!!優斗は…
おっと…♥ようやく俺のが馴染んできたか？♥


考えてみれば
優斗は――
一度も逃げたこと
なんてなかったよね
だっていつも
アタシがそばにいたから…
優斗はアタシのこと
女として見てくれたこと
一度でもあったのかな…
おッ
おぉ…ッ
あぁッ
美咲はいいな…
優斗の大切な人で
いられて
アタシのほうが
先に好きに
なったのに…
それでも――
待ってたんだよ
優斗がアタシを
見てくれるその時を
いつだって
優斗のそばで…
ばちゅっ
ばちゅっ
ばちゅっ
ばちゅっ


え？
なに？
この感覚…
イヤ！
邪魔しないで!!
変なのが…
下から背筋を
這い上がって
くる…
そうだ…
アタシ
今 セックス
してるんだ…
ああ…
この感覚…
これが…
セックス…？
アタシ 結局——
ほかの男に
初めてを
奪われたんだ…
おめでとさん♥
これでようやく
女になれたって
こった♥♥